

わが国最大の海拔0m地帯を有する愛知県における安全・安心な地震防災対策 基盤の確保（復興基本方針関連（全国防災））

計画概要

◆計画期間

平成23年度～平成27年度(5年間)

◆計画の目標

想定される東海・東南海・南海地震などの大規模地震に対して安全・安心な地域を形成する。

◆計画の成果目標(定量的指標)

指標①:想定される東海・東南海・南海地震などの大規模地震に対応するため耐震化に着手(整備済
含)する水門・排水機場等の河川管理施設を5施設から40施設にする。

指標②:あいち地震対策アクションプランに位置づける河川堤防の耐震化優先対策区間の延長を26
kmから27kmにする。

指標③:あいち地震対策アクションプランに位置づける海岸堤防の耐震化優先対策区間の延長を17
kmから28kmにする。

指標④:地震時の防災対策のために津波遡上区間の堤防や護岸など河川の整備済延長を58kmか
ら70kmにする。

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
A 河川事業、海岸事業	33,618百万円	日光川水閘門の改築、猿渡川等の堤防耐震化等を実施。 豊橋海岸等の堤防耐震化等を実施。	97.2%
B 関連社会資本整備事業	77百万円	日光川防災道路整備関連の道路整備工事を実施。	100.0%
C 効果促進事業	0百万円		%
合計	33,695百万円		

※事業費は実績額

※進捗率(%)は各事業の計画に対する実施割合【事業費ベース】

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

・昭和34年の伊勢湾台風以後に設置された日光川水閘門は、ゼロメートル地帯の周辺地盤の沈下や施設の老朽化等により機能が低下していたが、東日本大震災後の最新の知見に基づく耐震性能を有する新水閘門の改築へ向け、本体部の施工は完了できた。(別紙1)

・L1津波の遡上区間において、地震に伴う河川・海岸堤防の沈下を抑制するため、液状化層の側方流動を抑える鋼矢板の設置等の堤防耐震化を進捗できた。(別紙2、3)

Ⅱ 定量的指標の達成状況

指標①(水門・排水機場等の河川管理施設の耐震化着手率(%))

= (耐震化に着手した河川管理施設) / (河川管理施設前42施設)

最終目標値	95.2%	目標値と実績値に差が出た要因	平成24年2月に改訂された河川構造物の耐震性能照査指針における新規検討事項を踏まえた耐震計画の見直し等に不測の日数を要したことが、目標値を下回った要因と考える。
最終実績値	59.5%		

指標②(河川堤防の耐震化率(%))

= (耐震化した堤防延長:照査による不要区間含) / (優先対策区間計画延長27.08km)

最終目標値	100.0%	目標値と実績値に差が出た要因	-
最終実績値	100.0%		

指標③(海岸堤防の耐震化率(%))

= (耐震化した堤防延長:照査による不要区間含) / (優先対策区間計画延長27.6km)

最終目標値	100.0%	目標値と実績値に差が出た要因	(概ね目標を達成)
最終実績値	97.4%		

指標④(津波遡上区間の河川整備延長(%)) = (整備済延長) / (全整備延長94.8)

最終目標値	74.5%	目標値と実績値に差が出た要因	(概ね目標を達成)
最終実績値	70.6%		

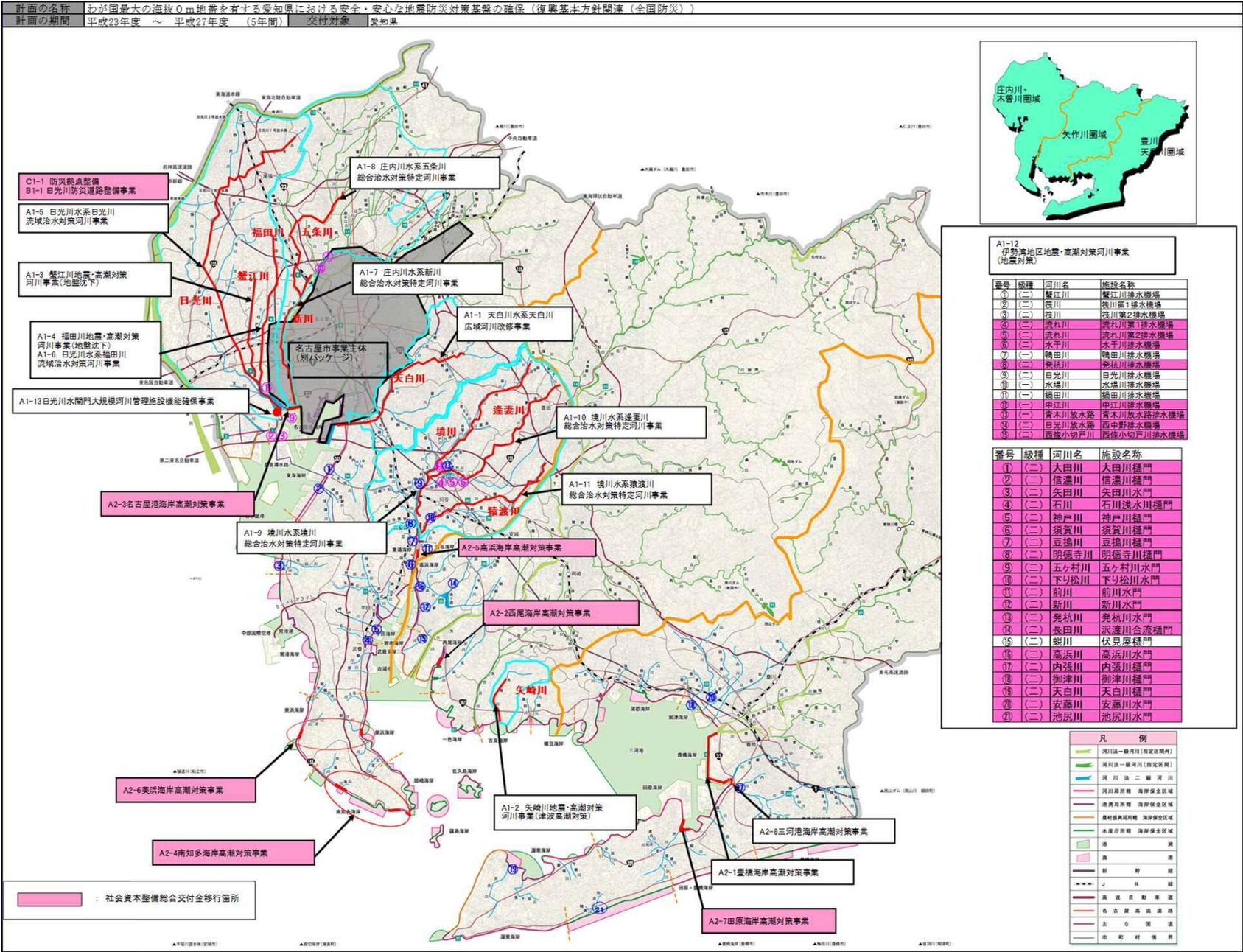
◆今後の方針

・想定される南海トラフ巨大地震に対する河川・海岸堤防等の地震・津波対策については、平成28年3月に策定した愛知県地域強靱化計画に基づき実施し、引き続き安全・安心な地域の形成を目指す。

◆事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	策定主体にて評価を実施。
事後評価の実施時期	平成30年3月
公表の方法	WEBページ公開 (http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/0000039039.html)

参考図面



【基幹事業】

■事業名

日光川大規模河川管理施設機能確保事業

■工事概要

日光川水閘門は、昭和37年の運用開始から年月が経過し、本体の老朽化が著しく、南海トラフ地震などの巨大地震が発生した際に機能が損なわれる恐れや、これまでの地盤沈下の影響により高潮に対し必要な高さが不足していることなどから、改築が急務となっていた。流域を洪水や高潮及び地震の被害から守るため、平成21年度より水閘門改築工事に着手し、H26年度に本体工が完成、平成27年度に左岸護岸工に着手した。

■事業箇所

海部郡飛島村大字梅之郷地先

■事業主体

愛知県

■事業効果

昭和34年の伊勢湾台風以後に設置された日光川水閘門は、ゼロメートル地帯の周辺地盤の沈下や施設の老朽化等により機能低下していたが、東日本大震災後の最新の知見に基づく耐震性能を有する新水閘門の改築へ向け、本体部の施工は完了できた。

日光川流域



現水閘門(H21撮影)



新水閘門(H29.3撮影)



目違い・クラックが発生

【基幹事業】

■事業名

境川水系境川総合治水対策特定河川事業(猿渡川)

■工事概要

猿渡川は、その源を豊田市山之手の市街地に発し、石田川、吹戸川、森前川及び下り松川と合流し衣浦湾に注いでおり、その延長は約17.5km、流域は刈谷市、知立市、安城市、豊田市の4市からなる流域面積約46km²の二級河川であり、製造業、特に自動車産業に係わる大規模な工場及び関連施設が存在し、住宅開発も進んでいる。地盤は液状化する緩い砂層が厚く堆積しているため、東海地震・東南海地震により液状化し、堤防が被災すれば浸水被害は甚大なものとなることから、愛知県国土強靱化地域計画/第3次あいち地震対策アクションプランに基づき、河川堤防の耐震補強を実施した。

■事業箇所

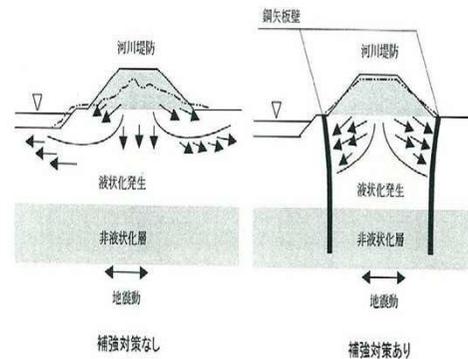
刈谷市、知立市

■事業主体

愛知県

■事業効果

地震による液状化に伴う、沈下等を抑制する河川堤防の耐震補強により、港湾・海岸事業も含めての一連区間の完了ができた。



【基幹事業】

■事業名

豊橋海岸 海岸高潮対策事業

■工事概要

豊橋海岸(吉前・神野新田地区)は三河湾沿岸最奥部に位置し、西方に面した干拓地上の海岸である。背後地には豊橋市の市街地が広がり、多くの人口・資産だけでなく、県の広域防災活動拠点である豊橋総合スポーツ公園、災害医療拠点である豊橋市民病院や、国道23号、東海道本線、名鉄など幹線機能が存在する。

本地域はゼロメートル地帯であるとともに、地盤は液状化する緩い砂層が厚く堆積している。このため、東海地震・東南海地震により海岸堤防が被災すれば、浸水被害は甚大なものとなる。

耐震性を備えた海岸堤防を整備することにより背後地の安全度を向上させるため、H18より事業に着手しH27年度までに堤防の耐震対策工事が完了した。

■事業箇所

豊橋市

■事業主体

愛知県

■事業効果

堤防の老朽化の進行などにより機能が低下し、大規模地震に対する耐震性が不足していたが、堤防の耐震対策工事が完成したことにより、機能不全要因を解消できた。



堤防耐震工完了
(H29.10.17撮影)

